

新しい住まいの形 コミュニティづくり

～日本版CCRCを考える～



(株)コミュニティネット
高橋 英 與
(たかはし・ひでよ)

1948年岩手県花巻市生まれ。設計事務所勤務を経て、(株)連空間設計を設立、代表取締役就任。コーポラティブハウスづくりを手がける。1987年、株式会社生活科学研究所(現社名:株式会社生活科学運営)を設立し、高齢者住宅や有料老人ホームづくりに携わる。2005年、生活科学運営の経営を若手に移行。2006年、株式会社コミュニティネット代表取締役就任。自立型高齢者向け住宅「ゆいま～るシリーズ」を展開し、団地再生・過疎地再生、福祉の町づくりをテーマとしたコミュニティづくりを進めている。著書に『街の中の小さな共同体』(中央法規)、『コミュニティ革命～地域プロデューサーが日本を変える』(彰流社)を8月下旬上梓(他)。

第2回 団地の空き家活用

団地の空き家を活用したサ高住、ゆいま～る高島平(東京都板橋区)がオープンして9ヵ月たちました。これは、UR高島平団地の1棟(121戸)の中にぼつりぼつりと生じた空き家30戸を、点在したままの状態です。全国で820万戸といわ

多世代が集まる場に

れる空き家活用の事例として、あるいは団地再生の視点から注目したい。8月17日にNHKあさいち「どうなる?わたしのついで住みか」特集で、また、8月28日にはTBSの朝の報道番組「ビビッド」で、「古くて新しい団地スタイル」としてゆいま～る高島平が取り上げられました。入居の動機について、自宅を売却してゆいま～る高島平に転居したTさん(女性80歳)は、「高齢者だけで暮らしたくなかった。団地には子どもたちがいて、商店街も公園もあり理想的な暮らし。Oさん(女性72歳)は「普通の暮らしができることに加えて、生活コミュニティのいる安心」に「近くに訪問診療をしてくれる医師がいる」「最期まで暮らせる」の3つをあげています。政府の地方創生本部は先ごろ、「生涯活躍のまち」(日本版CCRC)の中間報告を発表しました。その中で、「要介護状態になってからの入所・入居の選択ではなく、元気なうちに自分の意志でついで住みかに移り住み、多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要な医療・介護を受けることができるような地域づくり」を提唱しています。様々な取り組みが展開される中で、団地の空き家活用はそのモデルの一つと考えられています。高齢者住宅を新たに作り、その一カ所にさまざまなサービスを集中させようとする「あ

介護 B i z